

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	23-417	佐賀県医療センター好生館 角南隆史 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生
題名（原題／訳）		
Effect of screening, brief intervention and referral to treatment for unhealthy alcohol and other drug use in mental health treatment settings: a randomized controlled trial メンタルヘルス治療施設における不健康なアルコールおよび他の薬物使用のスクリーニング、短期介入および治療への紹介の効果：無作為化比較試験		
執筆者		
Karno MP, Rawson R, Rogers B, et al.		
掲載誌		
Addiction. 2021;116(1):159-169. doi:10.1111/add.15114		
キーワード		PMID
アルコール、簡易介入、薬物、メンタルヘルス、精神科、治療への紹介、スクリーニング		32415721
要旨		
<p>目的：アルコールまたは薬物の使用を減らし、メンタルヘルス治療を受ける患者の依存症サービスの利用を促進するための簡易介入の有効性を検証する。</p> <p>デザインと設定：米国カリフォルニア州のベンチュラ郡とロサンゼルス郡にある2つの精神保健治療施設のそれぞれにおいて無作為化を行った、多施設、縦断的、2群ランダム化比較試験。</p> <p>参加者：18歳以上で精神疾患の診断を受け、過去90日間に多量飲酒日または大麻もしくは覚せい剤の使用のいずれかを認めた患者718人（女性49.2%）。</p> <p>介入と比較対象：個別化されたフィードバックを伴う動機づけに基づく簡易介入（スクリーニング、簡易介入、治療への紹介（SBIRT）群）（n = 354）または健康教育セッション（対照群）（n = 364）。</p> <p>測定：一次アウトカムは、ベースライン後3ヵ月の一次エンドポイントにおける大量飲酒日数、大麻使用日数、覚せい剤使用日数であった。副次的アウトカムは、12ヵ月後までの物質使用の頻度と断薬、および依存症治療サービスの利用であった。</p> <p>所見：SBIRT群の参加者は、健康教育群の参加者と比較して、3ヵ月後の追跡調査時に大量飲酒日数 [オッズ比 (OR) = 0.53 ; 95%信頼区間 (CrI) = 0.48-0.6] と覚せい剤使用日数 [OR = 0.58 ; 95%CrI = 0.50-0.66] が少なかった。SBIRT群の参加者は、3ヵ月後の追跡調査において、大麻の使用日数を減少させなかった (OR = 0.93 ; 95%CrI = 0.85-1.01)。副次的アウトカムでは、多量飲酒日数と覚せい剤使用日数の減少に対するSBIRTの持続的効果が示された。断酒率や依存症治療サービスの利用に対する効果は観察されなかった。</p> <p>結論：メンタルヘルス治療の現場における不健康なアルコールおよび薬物使用のスクリーニングと簡易介入は、大量飲酒と覚せい剤の使用頻度の減少に有効であった。</p>		